錦城高校新聞

題字　井口　文章

再刊　第３４２号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：未来の自分が輝くための進路講演会
どうなる？合唱祭　実行委員長に取材
二面：「月に桜を咲かせたい」
フランスの地で邁進する卒業生を特集

進路特集

将来につなげる進路の知恵

進路選択へ一歩前進

９月30日(水)に、１年生は進路講演会、２年生には学部説明会が行われた。１年生は、11月に迫った文理選択のポイントや将来の夢の実現に向けた話をマイナビの講師の方から教わった。また、２年生は興味のある学部について、学部別に分かれて大学の先生から学んだ。各学年、進路選択において有意義な情報を得ることが出来た。今号ではその様子を紹介する。

（編集部共同取材）

真剣に話を聞く１年生
熱心にメモを取る姿も見られた。

〈1年生講演会〉

主体性の重要さ

９月30日(水)の６時間目に第１体育館にて、株式会社マイナビの平野貴美代さんによる、１年生に向けた進路講演会が行われた。

講演会の始めにキーワードとして「自分事化」を挙げた平野さん。世の中で起こる様々なことに対して自分目線で考えるよう促し、１年生の興味を惹きつけた。「大きく変化する世の中において、自ら考えて動く力が今もこれからも大事になってきます」と主体性の重要さを語る。さらに「周りの人と協力して課題を解決できる人になってほしいです」と続け、協調性も大切であると話した。また、就職活動を始めた人が挙げた「今までやっておけばよかったこと」についての統計で、最も多かったのが「自己分析」だという。平野さんは「目の前の選択の１つ１つを自分に問い直してほしいです」と呼びかけた。

夢を描く材料を知る

講演会終了後、平野さんに取材をした。平野さんは、文理・進路選択に悩んでいる生徒に向けて「焦らなくて大丈夫です。まず、自分は何に悩んでいるのか、現在地を知ることが大切です」とアドバイスをくれた。また、進路のみならず今後何かを選択する際には、優先順位を自分で決めたり、①好きなこと、②自分ができること、③求める条件、（④社会で求められること）を数学のベン図に書き表したりすると良いそうだ。

そして、一番大切なことは「目の前の興味に没頭すること」だという。「今、面白いと思っていることが将来何かに繋がるかもしれません」と平野さんは話す。最後に錦城生に向けて「未来のためにも、今は様々な『変化』を楽しんでください」とメッセージをくれた。

〈2年生 学部説明会〉

２年生は、全32種類の中から自分の興味のある学部を選び、講義を受けた。ここでは２つの学部の説明会の様子を紹介する。

食文化に幅広く関わる

栄養学の説明会は、日本女子大学で公衆栄養学科を担当している鈴木礼子准教授によって行われた。この講義はコロナ感染予防を理由に、オンラインで実施された。スクリーンに内容が映し出され、パソコンのカメラを通じて互いに顔と声を共有した状態で説明された。「栄養学は生命維持と健康のための科学を学ぶ学問です」と鈴木さん。「食を通じての社会貢献」を栄養学を学ぶ上での目標にしていると語る。鈴木さんは「食は自分の文化を作り上げているものであるのと同時に、地球にも大きな影響を与える重要なものです」と話した。

オンライン説明会の様子

夢を見据えた学部選択を

教育学部の説明会は、明星大学アドミッションセンターの稲熊大介さんによって行われた。説明会では主に、学部の説明や教育関連の職業の紹介、取得出来る免許などについて具体的な説明がされた。稲熊さんは、教育関連の職業に就くには大学生のうちにとるべき資格が必要な場合が多いと強調。続けて「先生になりたい人は、自分のなりたい学校、科目などから逆算して大学や学科を選ぶ必要があります」と説明した。

稲熊さんは「自分に合った大学選びを頑張って下さい」とメッセージを送った。

＊　＊　＊

今回の講演会、学部説明会は、各学年の進路選択にあたって大切なことを多く学ぶ機会になった。今号の裏面では卒業生の進路選択に関する特集もあるのでぜひ参考にしてほしい。

お詫び

10月10日(土)に発行した341号に誤りがありました。表面の記事に最後まで文章が入っていないものがありました。謹んでお詫び申し上げます。

動き出す合唱祭実行委員会

代替え行事開催できるか

10月9日(金)書道室で合唱祭実行委員会が行われた。

新型コロナウイルス感染予防の観点から、今年度は合唱祭の中止が決まっている。そのため球技大会と錦城祭同様、合唱祭に代わる行事を開催することを検討中だという。開催は確定していないが、今回の委員会では多数決による代替案の絞り込みが行われた。

今後、更に実行委員会で内容を深め、先生や生徒会による審査を通過した後、行事の全容が決定する。

皆が楽しめる代替行事を

合唱祭実行委員長の大田勝己くん(２Ａ)に取材した。大田くんは「今年も例年通り行われると思っていたので少し悲しくなりましたが、今起きている社会の変化に対応できるような委員長になりたいです」と意気込みを交えて話した。

行事に対する熱意を
語る実行委員長

また、重視されるコロナ対策については、現在検討中だという。「本番だけでなく、練習の段階から密を避けなければならないため決めるのが難しいです」と語る。現時点で例年の合唱祭会場であるルネこだいらを予約済みだが、使用するかは未定だそうだ。

また、大田くんは、もし代替え行事を開催することになったら、クラスの個性を出せるものにしたいという。「この行事を振り返ったとき、『合唱祭はできなかったけれどこれも楽しかった』と思ってもらえるようなものにしたいです」と話した。

（麦）

未来へ向けて高まる意識

10月7日(水)、1年生を対象に分科会が行われ、来年次のコース選択に向けての説明を受けた。

第2体育館では、特進理数・進学理系コースを志望している生徒に向けての説明が行われた。各教科の先生方から2年次以降の勉強法や教科の内容などの具体的な説明が行われた。国語科の設樂先生は「言語を使う能力は大事です。理系だからといって、国語をオプションだと思わないでください」と語った。自分自身の経験談を交えながら話をした数学科の青木先生は「数学は学習の積み重ねが大事です」と強調する。最後に、理科の甘來先生は「数学は予習を、理科は復習をしっかりと行いましょう」と話し、生徒は熱心に話を聞いていた。

ホールでは、難関国公立大学進学を目標とした特進文理・文Ⅱコースの説明を実施。国公立大学と私立大学の違いについての説明のほか、進路指導部の石井先生の「目標は高く持て」というアドバイスや教科別の先生方によるメッセージが生徒に向けて送られた。英語科の福江先生は、自分が思っていたよりもずっと早く、大学受験や就職活動の時期がやってきて困惑したという体験を語った。そして「今のうちから己の『武器』となるものを見つけてください」と話した福江先生。2年後の大学受験、そしてその先の未来へ繋がる有意義な時間となった。

（紅・桜）

油断せず慎重に検討しよう

自分史上の「ベスト」に挑む

陸上部　女子競歩　関東大会出場

９月24日(金)から26日(日)にかけて行われた東京都新人大会で、好成績を残した。

女子競歩で優勝した小倉優凜さん(２Ｌ)は第24回関東高校選抜新人陸上競技大会への出場が決定した。都大会での結果について「前回出場した大会で肩と腕の筋力が弱くて悔しい思いをしましたが、反省を生かして練習し、結果を残すことができたので良かったです」と振り返る。新型コロナウイルスの影響で、学校で行う練習が１時間に制限されていたため家でも練習したそうだ。「関東大会では都大会よりもさらにベストを尽くせるように頑張りたいです」と意気込む。

女子槍投げの部で第５位に輝いた貝瀬彩花さん(２Ａ)は、今大会での自身の結果について「ベスト記録を更新できたのでとても嬉しかったです」と話す。しかし、あと27㎝で関東大会に出場できたことに対する悔しさもあるという。今後に向けて「毎日の練習や家での体づくりにも積極的に取り組み、来春のインターハイ出場を目標に頑張っていきたいです」と話した。

冷静に当時を振り返る
陸上部員

バドミントン部　男女ともにベスト16

９月27日(日)に行われた東京都高等学校バドミントン新人戦Ⅰ部大会の個人戦ダブルスに、谷野桃花さん(２Ｇ)と和光綾香さん(１Ｇ)が出場し、見事東京都ベスト16の成績を残した。和光さんは試合を振り返って「先輩がリードしてくれたので、自分の力を発揮できました」と話す。谷野さんは「今回はベスト８が目標でしたが、あと一歩届きませんでした」と悔しさを滲ませる。また、今後に向けて「団体戦では西東京ベスト４に入りたいです」と意気込んだ。

同大会の男子ダブルスの部で、行松宏樹くん(２Ｃ)と縄田理玖くん(１Ｅ)がベスト16に輝いた。行松くんは試合の結果を受けて「自分たちの力を最大限に発揮することができました」と笑顔。縄田くんは、自分たちのペアが左利き・右利きペアだということを挙げ、利き腕が違うペアならではの戦術を今後活かせるようにしていきたいと意気込む。２人は「今月末にある個人戦でも結果を出せるように頑張りたいです」と抱負を語った。

男子・女子バドミントン部
４人で決めポーズ

ソフトボール部　都大会への出場が決定

新人大会予選で勝ち上がり、都大会に出場することが決まったソフトボール部。部長の古閑丸陽子さん(２Ｂ)と部員の野澤瑞佳さん(１Ｂ)に話を聞いた。「昨年は予選敗退だったので、素直に嬉しいです」と語る古閑丸さん。都大会に向けては「ベスト８を目指して、一勝でも多く勝ち進めるように精進したいです」と話した。また、野澤さんは「まずは予選で勝てて良かったです。しかし、改善すべき点はまだあるので、改良しながら頑張りたいです」と意気込みを語った。

（烏・鷺・紅）

むらさき草

緊急事態宣言が解除されて、慌ただしく１学期が過ぎ去り、２学期の中間考査前を迎えている。休校期間中は自由な時間が多かったが、外出自粛要請でつまらなかった。いざ学校が始まると、忙しかったが、前よりも充実しているように感じ、楽しかった。それは自分でも意外だ▼８月１５日の終戦記念日、勉強しながらテレビを見ていると被爆者の方が「これからも戦争のない平和な日々が続いてほしい」と語っていた。少し手が止まった▼そういえば、この日常を「平和」だと意識したことがなかった。テレビや新聞などで今もテロや紛争が起きている地域があるのを知り、日本に生まれて良かったと思ったことはあるが。この「平和な日常」が当たり前すぎたのかもしれない▼戦争を経験している人は、より日常に平和を見いだすことが多いのだと思う。今ある日常が、当たり前ではないと知っている。若い世代よりも「平和」を知っている▼同じ日常でも、その人がこれまでにどのような経験をしてきたか、どのような知識を持っているかによっても見え方は違うだろう▼例えば、眼鏡が机の上に一つあったときに、美術の先生ならそのフレームの形や色に着目するだろう。化学の先生ならレンズの厚さを見て屈折角を計算するかも知れない。また、苦しさ、つまらなさを知っている人は、知らない人よりも楽しさを見いだすことができるはずだ。▼何か苦しいこと辛いことが会った時には、次に楽しいことがあった時により楽しめる、ということを意識すれば乗り越えることができるかも▼あなたは、自分が今、どれだけ自分だけの視点で世界を見ているかを意識したことがあるだろうか。

（雀）

進路特集 & 錦城卒業生

「想像力」で宇宙に挑む

世界に踏み出す卒業生に取材

錦城の卒業生である青井勇輝さん(48回生)が、フランス国立農学研究所(ＩＮＲＡＥ)の博士課程に合格した。青井さんの目標は「月にしだれ桜を植える」こと。今回は青井さんに、ＺＯＯＭを用いて取材することができた。

（燕・槿）

世界的な研究所に合格

６月８日(月)、錦城高校の卒業生である青井勇輝さん(48回生)に、ＺＯＯＭを用いてのオンライン取材を行った。青井さんは「月にしだれ桜を植える」という夢のもと宇宙飛行士を目指しており、錦城高校新聞３０８号（２０１９年10月７日発行）でも特集をしている(詳細は下の記事参照)。前回の取材時、東京農工大学大学院農学府の修士課程に所属していた青井さんは、今年の春にその課程を修了。９月からは、フランス国立農学研究所(ＩＮＲＡＥ)という世界的に有名な研究所の、博士課程に進学している。この特集では、青井さんがＩＮＲＡＥに合格するまでの過程などについて取り上げる。

ＺＯＯＭを用いて青井さんに取材。
「人が想像できるものは、すべて実現できます」と力強く話す。

自らの成長を求めて ＩＮＲＡＥを受験

青井さんは、去年の６月にパリで行われた国際植物生長物質会議（IPGSA2019）の最中にＩＮＲＡＥのフランス人研究者と知り合ったことがきっかけで、今年の３月、ＩＮＲＡＥの受験機会をつかんだ。３月にはすでに東京農工大学の博士課程に進むことが決まっていた青井さんだったが「このまま日本で博士課程にいても、宇宙飛行士にはなれない。チャレンジしてみよう」と思い、日本の博士課程への進学をやめてＩＮＲＡＥの受験を決意。その後、書類選考、英語でのオンライン面接、プレゼンやディスカッションを経て、今年の５月、見事合格を勝ち取った。

青井さんがＩＮＲＡＥで博士課程に進もうと思った最も大きな理由は、時間の使い方が学べることだという。ＩＮＲＡＥは、研究室の開いている時間が日本に比べてはるかに短い。それにもかかわらず、世界的な結果を出していることに惹かれたそうだ。「限られた時間の中でも、結果を確実に出さなければいけない。それを成し遂げるためには、何をどの時間にすべきか考えるタイムマネージメントの力が必要になります。ＩＮＲＡＥでは、その方法が学べると思いました」と青井さん。また「世界トップレベルの研究所に身を置くこと、多言語で講義やディスカッションを行うことも、自分を成長させてくれるはず」と話した。

国際植物生長物質会議
(IPGSA2019)でのプレゼン

植物のプロとして宇宙に

今までは生物化学的な植物の成長ホルモンの研究をしていたが、フランスでは新たに物理化学的な細胞壁の構造について研究するという。新たに物理学的な分野を開拓しようと思った理由について「生物・化学・物理学の３つの視点から体系的に植物を見ることができるようになると思ったから」と青井さん。宇宙飛行士を目指していく上で、こういった多角的な視点から研究を進めていく能力は今後必要になるそうだ。

「宇宙飛行士は宇宙での様々な実験を任される責任ある仕事なので、あらゆる分野に精通しているのは最低条件。それ以上に重要なのは、突出した能力を持っていることだと思います。僕は植物のプロフェッショナルとして宇宙に行きたい」と語った。青井さんは専門分野である植物の知識を深めるため、フランスに行く。

自分のために先を見据えて

青井さんが大切にしているのは「未来を常に考えること」そして「想像力」。青井さん自身、宇宙飛行士になるためには何が必要かを計画的に考えて、多言語習得や空手、陸上、さらには植物研究など様々なことにトライしてきた。「高校生のうちは、自分が何を学びたくて何になりたいか、具体的に考えることはできないかもしれません。しかし重要なのは、未来を常に見据えること。自分は今何のために勉強をしているのか、そして何をしたいのか、自分に問いかけ続けてください」と青井さん。

また、自分の夢が見つからないときは、地域のイベントなど学校の外の世界に出て、自分の知っている人や環境を増やすことも一つの方法だという。「大学受験や就活をゴールにしてはダメ。自分のなりたいもののためには何をすべきか想像をして、未来のプランを描いていってください」と錦城生にアドバイスをくれた。

NASA(ワシントンDC)で
プレゼンする青井さん

経験と知識を糧に未来へ

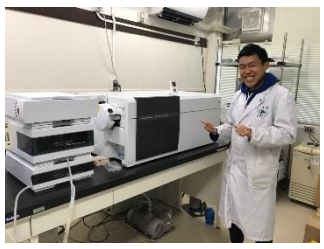
「誰にとっても時間は平等で、その時間をかけた自分の経験と知識は誰にも盗まれることのない財産です」と青井さんは言う。人が想像できるものは、全て実現できる。青井さんは、その計画力、知識と経験、何より想像力を武器に、月に桜を咲かせようと宇宙に挑んでいる。

イメージの力が進路を決める

学校の進路学習ではあまり耳にすることのない大学院。大学受験のアドバイスに加え、大学院とは何をするところなのか、東京農工大学の大学院で修士二年を修めた青井さんに聞いた。

大学受験は「イメージ」

受験はもちろんのこと、何かを成し遂げるときに重要なのは「イメージ」だという。「自分が合格するイメージができればできるほど、それは現実のものとなってきます。しかしもちろん、受かるイメージには根拠が必要。その根拠となるのが自分の経験です」と語る。また志望校選びについても、入学した後「この学校は自分に合わない」と思うことがないように「その学校に通う具体的なイメージが持てるまで、オープンキャンパスや説明会に通うことが必要です」と話した。



農工大の研究室と青井さん

答えのない大学院での学び

大学院の大きな特徴は、「解が無いものを追求する」ところだという。大学では授業やテストなど座学中心で、その分野の一般的な知識を学ぶ。しかし、大学院では研究室に所属して、自分で決めたテーマにそった研究や実験がメインになる。勉強と違って明確な答えはないため「洞察力や考察力に差が出てきます」と青井さん。

研究室選びについては、自分で研究したいことが決まっている場合、その目的に合った教授や研究室をきちんと調べることが重要だという。「研究が好きで、何か新しいことをやりたいという人は、大学院に進むといいと思います」と青井さんは教えてくれた。

INRAE ってどんなとこ？

フランス国立農学研究所、INRAE(写真は青井さんによる)は、約2000人の研究者が所属している、世界的に有名で大規模な研究所だ。農業や食品、環境など研究分野も多岐にわたる。
(参考:https://www.inrae.fr)

青井さんに聞いてみた！

現在に至るまで、さまざまな経験をしてきた青井さん。そんな先輩である青井さんに、いろいろ聞いてみました！

編集委員　Ｑ１　青井さんは、６か国語を駆使して世界中で人脈を築き上げていますが、そのコミュニケーションのコツは？

青井さん　まずは笑顔。これが一番大事。次に「Ｎｏ」と言わないこと。相手からの誘いはできるだけ断らず、基本的に「Ｙｅｓ」でいきます。最後に、カタコトでもいいから相手の母国語で話すことです。

編集委員　Ｑ２　青井さんのように、世界で活躍するには？

青井さん　まずは、どんな風に活躍したいのか具体的に考えることですね。そのうえで、セミナーやプログラムがないか情報収集を。積極的に外の世界へ挑戦して、早いうちから主体性を持って行動すればいいと思います。

編集委員　Ｑ３　いままで一番大変だったことは？

青井さん　僕は過去の経験を「大変だった」と振り返ることはあまりないです。何か失敗をしてしまったときも、20 秒だけ落ち込んで「じゃあどうするか」をすぐに考えます。失敗するのは理由があるから。みんなが落ち込む時間の分、僕はまた次へ向かって動き出します。途中の過程で失敗しても、最後に成功させられればそれでいいんです。

どうして月にしだれ桜を？

錦城高校新聞では、過去に３０８号（２０１９年１０月７日発行）で青井さんにインタビューしている。当時青井さんは東京農工大学大学院農学府の修士課程で、植物の成長を促進するホルモン「オーキシン」について研究していた。

小さいころから宇宙や植物に興味があった青井さんは、宇宙飛行士になることを将来の夢にしていた。あるときふと「無重力空間に植物を植えたらどうなるんだろう」と疑問を持ち、無重力空間でもしだれ桜はしだれるのか、自分で確かめてみたくなったという。美しい月や桜が好きで、その姿を見てみたいと思ったことも理由のひとつだ。

一年前の５月 29 日(水)に
ラーニングセンターにて取材

３０８号はその他にも、青井さんの錦城生時代や、２０１９年３月に開催された「若者による多言語プレゼンテーション大会第６回　LMP Youth TOKYO」で金賞を受賞したことなど、青井さんの昨年までの経験について詳しく取り上げている。錦城高校のホームページに掲載されているので、興味のある人はぜひ見てみてほしい。

大会報告を募集しています！
お近くの編集委員か、
新校舎7階生徒会室まで
お願いします！！

大会報告

陸上部
▽９月25日(金)～27日(日)
東京都新人大会
・男子６支部１００ｍ
野口裕太(２Ｌ)
８位
・女子６支部やり投
貝瀬彩花(２Ａ)
１位
・女子６支部３０００ｍ
深田すみれ(２Ｄ)
８位